



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

秋田県 にかほ市立仁賀保中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名：JOCオリンピック教室
- 主催：公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援：スポーツ庁
- 協力：公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象：中学2年生
- 講師：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間：2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数：80校程度
- 実施方法：クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

### 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、チームワーク、フェアプレー、身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



### 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、オリンピックをより身近に感じてもらいます。



**1コマ目**

**運動の時間 / 50分**

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

**2コマ目**

**座学の時間 / 50分**

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、  
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、  
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、  
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した  
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック**：淡路卓先生（フェンシング）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2022年10月21日(金)

■ **ク ラ ス**：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・フェンシング競技でロンドン2012大会に出場したと自己紹介し、オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス：「卓越」「全力」「挑戦」、フレンドシップ：「友情」「仲間との絆」、リスペクト：「尊敬」「感謝」と意味を説明し、運動の時間では、体を動かしながらオリンピックバリューを意識して取り組んでほしいと授業の目的を伝える。

○主運動等



・準備運動として、ストレッチをした後、フェンシングのロンペ、マルシェ、ファンデブーの動きを練習し、フェンシングの前進、後退やサイドステップを取り入れながら、相手の腰に付けたハチマキを取り合う「しっぽ取り鬼」を実施(全2回)。  
 ・主運動として、「8の字跳び」を実施(全3回)。3チームに分かれ、90秒間で連続で跳んだ回数を競う。途中で引っ掛かった場合は、1から数え直すルールで実施。開始前に作戦、練習タイムを設け、実施後には各班の工夫を確認しながら行った。



・運動の時間を振り返り、主運動の8の字跳びでは、後半は疲れが見えたチームもあったようだが、作戦タイムで話し合ったことは無駄ではなく、次に繋がる有効な作戦や上手いかなかった原因等を知ることができたことは良い機会になった。皆で意見を出し合い作戦を立てたことは、今後運動だけではなく様々なことにも取り入れ、忘れないでほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：淡路卓先生（フェンシング）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2022年10月21日(金)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・フェンシング競技でロンドン2012大会に出場した時のウェアやメダルを披露した後、座学の時間では、自身の経験をオリンピックバリューに当てはめながら話すので、「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つの価値のどれに当てはまるのか、自分自身に置き換えてみる等、考えながら話を聞いてほしいと伝え、授業の目的を確認する。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を振り返って、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「全力で取り組んだ」「全力でプレーし、楽しみながら取り組めた」等

フレンドシップ：「協力するために声を掛け合った」「皆で意見を沢山出し合った」「お互いのことを理解した上で作戦を立てて協力した」等

リスペクト：「仲間の意見を尊重した」「お互いを褒め合えることができた」等



・座学の時間を振り返り、グループワークで、「作戦を立てたが上手くいかなかった」と発表してくれたが、上手くいかなかったことよりも、作戦を立てたことを実際に行動に移してみるのが大切である。結果がどうであれ、このようにすれば良かった、これをしたから上手くいかなかった等を知ること、次に繋ぐことができ、皆にとってプラスの経験になることを忘れないでほしい。今後も、何かに取り組むにあたり、作戦で皆で相談したこと、グループワークで出合った意見等を思い返し、それらを実践してほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：淡路卓先生（フェンシング）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■期 日：2022年10月21日(金)

■ク ラ ス：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・ロンドン2012大会にフェンシング競技のフルレ日本代表として出場したと自己紹介。運動の時間では、フェンシングの動きを取り入れたウォーミングアップ等、皆で体を動かしながら、オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス：「全力」「諦めない」「頑張る気持ち」、フレンドシップ：「仲間」「友情」、リスペクト：「尊重」「ルールを守る」と意味を説明し、運動と座学の2時間を通して、この3つの言葉を意識しながら、楽しんでいきたいと授業の目的を伝え、準備運動に移る。

○主運動等



・準備運動として、フェンシングのマルシェ、ロンパ、ファンデブーの動きを練習し、フェンシングの前進、後退やサイドステップを取り入れながら、相手の腰に付けたハチマキを取り合う「しっぽ取り鬼」を実施(全3回)。  
 ・主運動として、「8の字跳び」を実施(全3回)。90秒間で連続で跳べた回数の合計を競う。各回実施前に、2分間の作戦、練習タイムを設け、3回目の実施前には、各班が立てた作戦を確認しながら行った。



・運動の時間を振り返り、主運動で取り組んだ、8の字跳びでは、1回目、2回目と記録が伸び悩んだとしても、諦めずに皆で作戦を立てたことで、最後に全チームが1番良い記録を出せたことは素晴らしい。これは運動だけではなく、日常生活や勉強等でも、皆で意見を出し合い実践することで、皆の学校生活がさらに良いものになっていくことを忘れずに意識してほしいと伝え、授業終了。



■ **オリンピック**：淡路卓先生（フェンシング）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2022年10月21日(金)

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・フェンシング競技でロンドン2012大会に出場した時のウェアやメダルを披露した後、オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス：「卓越」「ベストを尽くす」「一生懸命に頑張る」「諦めない」、フレンドシップ：「友情」「仲間」「協力」「チームワーク」、リスペクト：「敬意」「尊重」「ルールを守る」「感謝する」等の意味が込められていると説明し、オリンピックでの経験を通して、3つの価値に当てはめながら話していきたいと伝え、授業の目的を確認する。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を振り返って、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「友達と全力で取り組めた」「諦めずに全力で取り組めた」「記録更新を目指してベストを尽くした」等  
 フレンドシップ：「全員で支え合えた」「皆で話し合っって次に繋ぐことができた」「数を数える時等、お互いに声を掛け合うことができた」等  
 リスペクト：「大縄の回数申告の時に、嘘をつかなかった」「ルールを守ることができた」等



・座学の時間を振り返り、運動の時間の8の字跳びでは、最後に素晴らしい記録を出せたことは、エクセレンスの「全力で取り組む」ことができていたということもあるが、特にフレンドシップの「仲間と協力し合っって作戦を立てる」という部分がしっかりとできていたことが大きかった。これは運動だけではなく、皆の普段の日常生活にもオリンピックバリューを活かすことができるということであり、何かに取り組む時、上手くいかないこともあるが、考えて取り組むことは決して無駄にはならない。これからも皆で協力し合いながら、より良い中学校生活を送ってほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■ 修了証贈呈

